

読む



ビタミン

地域に根ざす工務店

・リフォーム店を元気にするビタミンです。

2019年11月号

今月のひと言

偶然が人生を導いている。

ネット上のコミュニケーションでは得られない、生身の人間同士のコミュニケーションがあることなどは、どなたも先刻ご承知でしょう。

だから街中で、駅で、偶然で思ってもみなかった人と出合った。

その目の前の出来事、現実を、大事にしてほしいと思います。

かのニュートンだって、偶然リンゴが木から落ちるのを見なかったら、「万有引力の法則」は発見できなかった。

常に「問うている」+「偶然の出会い」
=あなただけの人生

誤りの先に会おうもの

河合 香織

朝方に降っていた雨は晴れやかにあがったので、油断をして傘を持たずに家を出たら、突然驚くほどの大雨が降ってきたことがあった。日曜日の表参道では、雨宿りをしている人たちがビルの軒下にひしめき合っている。用事のあったビルから地下鉄の入り口までは走れば数分だろうと、雨の中に飛び出した。勢いよく走りたいのだが、傘をさしている人たちは横に広がって悠々と歩いているので、なかなか追い抜くことができない。私は絞っていない雑巾のようにならず濡れになりながら、湿った潮風が吹く港町の風景を思い出していた。

20年ほど前まで神戸に住んでいたのだが、当時は駅の改札あたりで雨宿りをしていたり、思い切って雨に濡れながら小走りしたりしていると、「そこまで一緒にどうぞ」と誰かがそっ

と傘を差し出してくれることがあった。年配の人も若い人もいた。「よく降りますね」という程度の会話をするだけで、ほんの数分くらいの間のことだが、まったく知らない他人と互いに傘を分かち合う偶然の時間はな

プロムナード

んだか愉快に思えた。「となり」の「トロ」でトロトロにサクキという少女が傘をどうぞと貸す場面があるが、かつてはそれほど珍しくない光景だったのかも知れない。傘を持って出かけるのを忘れた父を、雨の中バス停まで迎えに行ったことで、サクキは「トロ」に出会うことができた。失敗が偶然の出会いをもた

らしてくれることもあるのだ。学生時代に友人は、避妊に失敗して、まだ若くてお金もないし母親になるなんて無理だと大騒ぎし、けれども彼女は子供を産むことを選んだ。子供には障害があった。その後、離婚と再婚をし、人生の後半に差しかわらうとするとき、「あの子に出会えたことが人生で一番素晴らしい出来事だった」と話している。「この女とだけは結婚する



ことがありませんように」と初詣で誓った相手と結婚せざるを得なくなった知人も、今はけんかしながらも家族として強固に生きている。だが、今の世の中は失敗は忌避され、偶然の出会いを築きむよりも、必然であることを好むような空気が漂っているように感じる。あらゆる事態を想定し、自分の人生をできるだけ間違いないように設計し、手中に収めることが良いこととされているのではないだろうか。幾重にも人生に保険をかけ、出生前に子供に病気がないか調べる。備えあれば憂いなしという考え方も一理ある。だが、失敗の少ない、誤りのない人生は本当に安全で、彩り豊かな人生なのだろうか。失敗があったからこそ、

そして、どれだけ忌避しようとも、人は誤りを犯す。その誤りの先にあるものを描きたいがために、自分自身は文章を書いていると思う。最初の本を出してから15年の月日が経ったが、なかなか書くことができない思いを感じたのは本欄が初めてであった。ノンフィクションのように、人の話をもとに原稿を書くものとは違い、エッセイは自身の内面から文字を拾い出す作業である。だが、誤りの先にある光を描きたいという気持ちほどこちらにも一貫していた。今回で本欄の半年間の連載は終わるが、これからもずぶ濡れになっ

て二人で歩いている人に、傘を差出すような文章を書いていきたいと願っている。
(ノンフィクション作家)

はんソク コツつぼ



骨壺、ではありません。販売促進のコツとツボ、でございます。私の販促人生約40年の中で5千枚以上、様々なツールのラフを書いてきました。それだけあれば、多少は役立つものもあると思います。ちょっとしたアイデアや見せ方等ヒントになればと、ご紹介していきますので真似できることろはどんどん真似してくださいませ。

VOL.10

大事なことは世のため人のために

チラシなんてのはファンづくりであれ、見込み客づくりであれ、反響があつてなんぼ。そう思います。一番ポピュラーで誰もがさんざんやってきた販促です。まあ、最近はその効果も危ぶまれていますし、ネットがあれば素早く多くの情報が得られますから、みなさんもさほど期待していないのではないのでしょうか？

最近私が特に思うのは、「販促手法はもう出揃っちゃって、そろそろ限界なのではないか？」ということ。もちろん、WEBやSNSが登場したようにテクノロジーの進化でまた新しい手法がでるでしょうが、私が言いたい限界というのは“反響を得るしかけとか言い方とか、ひっかけるテクニックとか、そのあたりが限界”ということなのです。もっと根幹のことを大切にしないとイケないのでは？

販促はマーケティングの一構成要素ですが、マーケティングはその商品がそれを必要とする人にとって価値があり、購入した人が幸せになる(困ったコトが解決する)ことを大前提とします。

つまりは、「世のため人のためになる」ということ。

どうも、最近はこの大事なことがどうも見えてこないものが多いように感じます。

右のチラシは私が理事を務める「元気に暮らす会」というNPOのセミナー告知のもの。当然NPOですから売りに繋がる表現はNGなんです。スタッフ皆がとことんこだわったコトは、対象者に届くか？分かりにくくはないか？世のために人のためになるか？意見の相違もあり、納得がいくまで話しあい。ですので、こんなカンタンなものでも10回は修正しています。

折込チラシは一切せず、地区センターやケアプラザなどの公共機関に置いてもらったり地域紙への告知だけですが、10数組の方が参加してくれました。

みなさん、家づくりもリフォームもご家族の命と財産を守るとても大切な仕事ですね。だから反響率ももちろん必要だけど、世のため人のためを基礎・土台とし、正しく、熱く、メッセージを伝えることから再チャレンジしませんか。いや、しましょう!!!

販促は愛だ〜



住みなれた我が家で、 ず〜っと安心して 住み続けるための備えとは？

1 元気に 楽しく 安心に

住み続けセミナー

病気・介護を遠ざけ、ずっと生きがいを持ち、ハツラツと暮らすために、何をすべきか？
どんな準備をすればいいのか？
これからの暮らし方に役立つセミナーです。

講師：福祉環境アドバイザー 矢作 聡

日時 ● **9月1日** 13:30
令和元年 16:30

会場 ● 横浜市社会教育コーナー
横浜市磯子区磯子3-6-1-1

定員：30名様(先着順)
参加費：無料
スケジュール

受付	13:15
オープニング	13:30
①セミナー	13:45
お知らせ/休憩	14:30
②フォークを歌おう	14:45
③個別相談会	15:30
終了	16:30

▼会場ご案内地図



産業道路側から見た入口
JR京浜東北・根岸線 磯子駅 徒歩4分
※駐車場はありません。

2 元気に暮らす会・相談員の

住まいと暮らしの個別相談会 予約制

介護に配慮した住環境、リフォームや新築、住替え、気になる費用のことなど、あなたのモヤモヤをスッキリと解消します。



相談員
福祉環境
アドバイザー
矢作 聡

福祉住環境コーディネーター2級
ホームヘルパー2級
宅地建物取引士



相談員
福祉住環境
コーディネーター
渡邊 英和

福祉住環境コーディネーター2級
福祉用具専門相談員
建築施工管理技士
増改築相談指導員

個別相談会ご希望の方は事務局まで電話にてお申込みください。ご予約は→090-2745-7935

3 懐かしい ちょっとだけでも元気になって頂きたいこんな企画もご用意!

FOLK SONG を歌おう



フォークソングを一緒に！音楽は認知症予防、脳の活性化、身体機能の改善等に効果的です。

主催
特定非営利活動法人
元気に暮らす会

お問合せは→090-2745-7935
〒236-0011 横浜市金沢区長浜2-10-22-102
TEL&FAX:045(567)2289 Email:info@genki-kurashi.com
※ホームページ、ただ今制作中

不易流行

「なんでもすぐわかる時代です、が…」

京大総長「わからないを受け止めよ」

私の学生の頃は知識を手に入れるには大学へ来なければならなかった。知識を持つ人間から伝達されるか、図書館で本を読んでその知識を得るしかない。今の時代は密室にいてもインターネットで基本的な情報なら手に入る。そういった意味では大学は知識を手に入れる学びの場ではなくなった。

生きた知識は対話を通じて生の情報をやり取りすることで初めて得られる。言ったことが誤っていれば、間違っていると言いつける。これによって情報や知識を変えることもできる。情報になったものを受け取るだけだと勝手に解釈されてしまう。インターネットでは情報は伝達できても、情報から得る大切なものはやり取りできない。講義も聞くだけでは意味がない。対話によってやりとりするアクティブラーニングで、考え方や考えたこと、考えることを学ぶ。実験やフィールドワークを通じ、生の経験を共有しながら学んでいく。

多くの人は「わかること」が「学び」だと勘違いしている。「わからない」ということを「知る」ことが学びだ。友達ならずっと付き合っていけばわかりあえると思っている人がいるが、人間なんてわかりあえない。わかりあえないことをい

ろいろやり取りしていることこそが学びだ。知識だって同じで、いくら得てもわからないことはたくさんある。わからないということを知りながら、高みに上がる、深みに入っていくということを感じなければ学びではない。

人間は言葉によって、世の中に因果関係があるという物語を作った。原因と結果を理解する長大なプロセスを短くするため、知識を利用する。知識が誤っていたり未熟だったりすると、結果は本物ではなくなる。結果をすぐに求めようと、都合のいい知識を当てはめても、世界はわからない。世界はそれだけ謎に満ちている。

■一人ひとりが情報化される時代

わからなくなったときに原点に立ち返らず、先へ先へと進もうとする。変化を追いさえすれば良くなると思えるのは、現代資本主義、新自由主義の悪弊かもしれない。日本も明治以降、とにかく変化を求めてきた。そのために科学技術は使われてきた。今は大きな転換期。私たちが捨て去った19世紀や20世紀に起きていたものをもう一度見直して再現する方が幸せかもしれない。そういう考えも学びの結果だろう。



インタビューに答える山極寿一京都大学総長

人間の脳は意識と知能でできている。2つは異質のものだが、脳の中で操ることで生の会話や付き合いができてきた。しかし、AIは知能の部分を外部化する。意識の部分はデータ化できない。情報社会で意識の部分は置き去りにされている。共感するよりは知識で解決した方がいいという知能至上主義は危うい。

情報社会ではそれぞれの人間が1つの情報になっている。中国のアリババ集団による「信用スコア」は人間が情報化される時代の先駆けといっている。人間は自ら情報になりたがっているようだ。誰もがデータ化できるとなれば、人間はも

う生物ではなくなる。生物は一個一個違うものだから。

学んでも学んでも、情報社会のなかに絡め取られる。昔は学べばそれだけ頭がよくなって、世界を知って広がった。しかし、今は莫大な量の情報の中に浮かんでしまう。絶望的ですからある。だからこそ、違う人間のことをわかってもらうのではなく、違うことを前提に自分1人ではできないことを一緒に作りあげていく、という社会のあり方を学ばなければならない。

工務店さんがいるところなら...

日本全国東奔西走どこへでも！

呑んで騒いで時折仕事。

結成43年目のライブ



渡り旅日記



七十六合目 一人呑みの至福 郡山の夜

11月中旬、3泊4日で福島は郡山へ。初日は白河での研修。研修後は車で郡山へ移動し、本日はお役目ごめんとなり、郡山の繁華街を徘徊し、まるで孤高のグルメよろしく店を探すのでありました。



▲名物白河ラーメン(まあまあであった) 初日の夜、福島の地酒と旨いつまみで幸せ～。

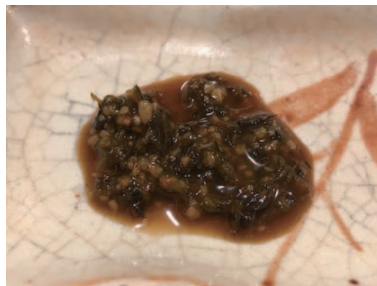
一人呑みはいつもふわっと幸せな気持ちになるのです。

あいつ、こいつ、死んだばあちゃん、たくさんの方が登場するのです。もちろん嫌な奴の顔も……。でも泥水を濾すと砂金が取れるように、そいつの笑顔を思い浮かべる事ができます。

そいつの悪口を言ったり、嫌な想いもして、馬鹿にしたり



▲ソウルフード“いかんじん” 松前漬けに似ていた。旨し！



▲土産には無い“一升付け” 絶品！！ 紫蘇のみを醤油などで漬けたもの。



▲馬刺と福島の地酒 たまらんです！



▲川俣軍鶏 抜群でありました。

した事もあったけど、出会うすべてから逃げなくて良かったなど、一人呑みのこの時には感じられるから。すべてに感謝できる素直さを自分自身が幸せだと感じる事ができるから。



さて、翌日は郡山でプチコンサル。ご一緒したLIXILの方に地元で人気の店で旨味がにじみ出るあら煮定食をご馳走に。

◀2日目の夜はおとなしくホテル呑み



▲2日目の昼食は金目鯛のあら煮定食



◀3日目の夜、ピンときて入った地元のおでんや

久々の3泊4日の旅でしたが仕事も一人呑みもとても有意義でした。今回の企画をしてくれたLIXILさんの博士に感謝です！また来るよ郡山。また会おう、郡山。

